

河川砂防技術研究開発公募(河川技術分野)平成21年度採択テーマ 中間評価結果

【XバンドMPLレーダ等の観測情報の活用に関する技術開発】

テーマ名および概要		提案者名	中間評価コメント
テーマ	XバンドMPLレーダと雲解像モデルによる短時間・極短時間量的降水予測法の開発	名古屋大学 坪木 和久	目標に向け順調に研究が進捗している。 現業での活用を意識してシステムの構築を進めること。 他のグループとの連携をとり、実用化に向けて検討を進めること。
概要	MPLレーダと雲を解像する気象モデルを結合し、局地的豪雨などについて、短時間(1~3時間)および極短時間(30分程度)の高精度量的予測法を開発する		
テーマ	ゲリラ豪雨予測手法の開発と豪雨・流出・氾濫を一体とした都市スケールにおける流域災害予測手法の開発	京都大学 中北 英一	目標に向け順調に研究が進捗している。 他のグループとの連携をとり、実用化に向けて検討を進めること。
概要	都市域を対象に、「ゲリラ豪雨」・「中小河川や下水道内の流れ」・「浸水氾濫」を一体とした豪雨災害の予知・予測手法を開発する		
テーマ	XバンドMPLレーダの効果的実利用へ向けての降雨観測・予測とCバンドレーダとの連携活用に関する技術研究開発	(独)土木研究所 深見 和彦	研究テーマが分散しているので、他の研究の進捗状況も考慮したうえで、知見を有しているCバンドレーダとの連携に集中して取り組むこと。 都市災害に対してXバンドMPLレーダがどのように貢献できるかを意識して研究を進めること。
概要	XバンドMPLレーダに必要な精度を明確化し、高速な豪雨予測手法とCバンドレーダ雨量計との連携技術を開発する		
テーマ	MPLレーダデータによる定量的降雨量推定とユーザの立場からの避難支援システム開発に関する研究	(株)建設技術研究所 藤原 直樹	目標に向け順調に研究が進捗している。 実務に活用されるよう、自治体等と連携し、ユーザーのニーズをしっかりと把握したうえでシステムを構築すること。 都市災害に対してXバンドMPLレーダがどのように貢献できるかを意識して研究を進めること。
概要	河川管理者、住民等の様々な雨量情報ニーズを満足するための、MPLレーダ運用方法、避難支援システム等の研究を行う		
テーマ	MPLレーダネットワークによる雨と風の3次元分布推定手法の開発	(独)防災科学技術研究所 真木 雅之	目標に向け順調に研究が進捗している。 他のグループとの連携をとり、実用化に向けて検討を進めること。
概要	局地的大雨の監視と予測精度の向上に資するために、雨と風の3次元分布および風水害ポテンシャル指標の算出手法を開発する		

(五十音順、敬称略)

【合成開口レーダ(SAR)を利用した防災情報把握に関する技術開発】

テーマ名および概要		提案者名	中間評価コメント
テーマ	リアルタイム画像処理合成開口レーダの実用化に関する技術開発	東北大学 犬竹 正明	目標に向け順調に研究が進捗している。 実用化に向けて研究を進めること。
概要	昼夜・悪天候時の災害画像を航空機上でリアルタイムに取得できる合成開口レーダのハードとソフトを開発する		

【新材料を用いた樋門樋管用ゲートの性能設計・施工技術に関する技術開発】

テーマ名および概要		提案者名	中間評価コメント
テーマ	新材料モルタルを主材とした低コスト軽量ゲートの実用化に関する技術開発	山口大学大学院 川崎 秀明	目標に向け順調に研究が進捗している。 現地での適用性について検討を進めること。
概要	EPS(発泡スチロール)廃材使用の軽量モルタルを主材とする新材料ゲートの開発を行う		
テーマ	新材料を用いた樋門樋管用ゲートの技術開発とその適用性の検討	(社)リバーテクノ研究会 三木博史	新材料のメリットを明確にし、経済評価などを含めて総合的に実用化に向けた検討を行うこと。
概要	新材料(プラスチック材料や複合材料など)を用いた樋門樋管用ゲートを開発し、性能規定化に資する適用性指標を作成する		

(五十音順、敬称略)